



岐阜大学



国立大学法人

# 岐阜大学

岐阜大学概要 2018

GIFU UNIVERSITY



# 学長挨拶

President's Message

国立大学法人岐阜大学は「学び、究め、貢献する」「人が育つ場所」であり続ける、これが現在まで継承してきた、また今後とも継承する私どもの存在理念です。この理念に立脚して特に2016年4月―2021年3月の第3期中期目標・中期計画期間に、岐阜大学は「地域活性化の中核拠点であると同時に、特定の強み・特色を有する領域で国際的／全国的な拠点を形成する」大学となります。なお後者の領域としては生命科学、環境・エネルギー科学、次世代ものづくり、医学教育開発を宣言しました。

さて、本学は5学部、4つの大学院修士課程、1つの大学院専門職学位課程、2つの大学院博士課程からなり、さらに3つの連合大学院で基幹校をつとめる中規模総合大学ですが、2004年の医学部・附属病院移転をもって全学部の現在地統合が完了しました。また敷地内には岐阜市立岐阜薬科大学3―6年生用校舎・研究施設が建設され、2015年4月には岐阜県防災・減災センターも開設、2017年には岐阜県中央家畜保健衛生所とインフラミュージアムが稼働を開始しました。さらに岐阜県食品科学研究所、スマート金型開発拠点も開設準備が進行中であり、総合的な高等教育・研究の中心として一層の機能強化が図られます。なおキャンパス各施設の現状はこの概要の建物配置図(44-45ページ)でご覧いただけます。自然豊かな郊外のワン・キャンパスで学習できるという環境は岐阜大学の売りです。

一方、とくに都市部の大学では都心回帰が盛んなことは十分承知しています。岐阜大学についても多くの学生や職員から通学の不便さ(岐阜駅からオフアワーでも約30分)が指摘されています。このような動き、要望に対する私どもの対応は駅前サテライト・キャンパスの開設です。JR岐阜駅前2棟目の高層ビル「スカイウイング

37」(37階建て)の東棟4階部分を借り切り、2012年10月に新しい教育セクションを設けました。IT設備も万全です。さらに岐阜大学のみが使用するのではなく、ネットワーク大学コンソーシアム岐阜に参画する23校(大学、短期大学、工業高等専門学校)との共同利用や、市民を対象としたセミナー、企業の催しについても、趣旨がサテライト・キャンパスの目的にそぐうものであれば受け入れ可能とし、実際、週末も含めかなりの使用実績を挙げています。特に2016年からスタートした新しい試みは、サテライト・キャンパスにおける全学共通教育1限目の8時間講義です。JRや名鉄で通学する学生諸君はこの講義を選択した後、バスで移動、2限目以降を柳戸キャンパスで受講すれば、朝のバスターミナルの混雑や交通渋滞を避けることが出来ます。また本学名誉教授陣による「岐阜大学サテライト・キャンパス公開講座“アカデミッククラブ”」も2016年4月から一般市民向けに開講しています。このシリーズは学問・文化の香りが高い、市民に人気の公開講座に育ちました。

次に、これからの岐阜大学がどのような方向に進んで行くのか。私どもは「人が学び育つ場所」としてあるべく各学部、各教職員が懸命の努力を積み重ね、人材すなわち高度職業人をこれまで多数輩出してきました。最近では、文部科学省の「地(知)の拠点(Center of Community; COC)」指定、その発展型であるCOC+事業の展開、両者の最優秀(S)評価獲得、南アジア地区における16大学からなる農学コンソーシアム(南アジア・コンソーシアム)結成、44大学からなる工学国際ネットワーク形成、「金型人材育成事業」、インフラ構造の維持管理にあたる「メンテナンス・エキスパート養成事業」、学校管理の高度専門職機能を育成する「教職大学院」、さらに「救急救命ネットワーク構築事業」、「国際教養コース」開設など、地域



# Contents

学長挨拶	01
岐阜大学の理念と目標	02
岐阜大学憲章	03
岐阜大学の教育における3つの方針	04
環境への取り組み	05
大学組織	06
教育研究組織	07

## 教育 学ぶ岐阜大学

教育推進・学生支援機構	14
特色ある教育改革の取り組み	15
学生数	16
入学状況	18
学部卒業生数・進路状況	19
国家試験合格状況・教員採用状況	20
大学院修了者数・進路状況	21
学生支援施設	23
学生サークル活動	24

## 研究 究める岐阜大学

研究推進・社会連携機構	25
特色ある研究の取り組み	26
科学研究費助成事業	28
共同研究・受託研究	29
発明届	29

## 社会連携 貢献する岐阜大学

地域連携	30
公開講座・シンポジウム・フォーラム	31
市民大学講座	31
高大連携	31

## 国際交流

グローバル推進本部	32
留学生受入・派遣状況	33
学術交流協定締結大学等一覧	35
研究者受入・派遣状況	37
国際交流会館	37
海外オフィス	37

## 組織

役員等一覧	38
役員・職員数	40
予算	41
寄附金	41
沿革	42
歴代学長	43

## キャンパス

建物配置図	44
土地・建物	46
所在地・交通案内	48

活動から国際活動まで全国のモデルとなる大きな実績を上げています。これらをもって岐阜大学のプレゼンスを中部以外の地域や全国、また国際的に一層向上させ、学生諸君、保護者諸氏、地域住民の皆さん、広く納税者から、一層高い評価を頂戴できるよう率いるのが小生の責務と考えます。

また私どもはこれらの実績に大きな自負を抱いていますが、一方、私どもの教育、研究が地域の、全国の、さらには国際的な需要に合致するか否かを常に検証することの重要性も十分理解しているつもりです。なかでも今後は特に大学のグローバル展開がきわめて大きな重要性を持ちます。これまで以上に相互の流れを大きくすること、外国人留学生を現在の400名からより多く受け入れることに加え、まず岐阜大学の学生が海外へ出かけその地における様々な需要(課題)を把握し、岐阜大学でそれを解決する研究・学習を遂行する、その回答を持って真の海外貢献を行う、これらが私どもの目標です。この目的で2019年には海外の大学と協働でジョイント・ディグリー・コースが一気に4本立上ります。このように地域に根ざした国際化を展開し、その成果を国内外の地域に還元する「グローバル」なサービスを大学として行うことが重要です。また同様のアプローチを国内の様々な地域貢献についても行う、すなわちCOC事業、COC+事業の神髄はここにあると考えます。

世にいう学長のガバナンスはこれらを実現させるためのシンクタンク機能を形成し、それを指導する能力であり提案する能力と捉えています。大学のグローバル化はその実現経路上に予測でき、行き届いた視野を持つことにより現出するものと考えます。広く皆さんとともに進んで参ります。

岐阜大学長 森脇 久隆